

2024年度

シラバス



学校法人 湯梨浜学園

湯梨浜学園中学校

〒689-0727 鳥取県東伯郡湯梨浜町田畑3-2-1

TEL (0858)48-6810

FAX (0858)48-6813

教科名	国語	科目名	国語	単位数	4
対象	中学2年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 中高一貫校の特色を生かし、詰め込み学習に終わらず、自分自身で考えて知識を増やす取り組みが出来る。 ② 深い思考力・読解力・表現力を身につけていく。その力を各種文芸コンテスト、検定に活かすことが出来る。 ③ 自分の考えをまとめ、他者に分かりやすく文章や発表に表現できる。 ④ 地域の魅力や課題を発見し、まとめ、発信できる。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表で評価。				
学習方法	① 様々な教材を用いた先取り学習を行い、論理的な思考と確かな知識を付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。				
教科書・教材等	新しい国語2・3（東京書籍） 中2徹底演習テキスト（受験研究社） キーワードの卵（尚文） 中学書写（学図） 古文単語コア350（旺文社） 古典文法用言徹底ワーク（尚文） 自作テキストなど				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	復習及び発展内容 「鯉節 世界に誇る伝統食」 文章の基本的な書き方	前年度の復習や発展内容 筆者の主張を的確にとらえ、目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解する。 文章の基本的な書き方を学び、理解する。	12	10	「神奈川沖波裏」 古文の復習・基本 「万葉・古今・新古今」 地元の魅力や課題発見	筆者の独特の表現を理解し、絵や写真の内容を文章の形で自分で表現できるようにする。 作品を通し、用言・助動詞を学習する。 それぞれの和歌が詠まれた背景や作者の心情について理解する。 地元の魅力や課題を発見し、まとめ、文章にする。	16
5	「ハトはなぜ首を振って歩くのか」 郷土の良さを伝えよう 文章の表現方法	筆者の主張を的確にとらえ、目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解する。 文章の基本的な表現方法を学び、題材をまとめて書く。	16	11	「清少納言と紫式部」 地元の魅力や課題発見	作品を読むことを通じて、古典に表れたものの見方や考え方を理解する。また、文章を比較し、文章の構成や論理の展開、表現の効果について学ぶ。 地元の魅力や課題を発見し、まとめ、文章にする。	16
6	「字のない葉書」 古文の復習・基本 「平家物語」	場面の展開を捉え、人物や情景を描いた表現に着目して、心情の変化をとらえる。 作品を通し、用言を学習し、助動詞に触れる。 表現の特徴を捉えて本文を繰り返し音読し、内容を読み取り、当時の人々の心情を理解する。	16	12	「二つのアザミ」 「俳句の読み方味わい方」	詩や俳句の意味や効果的な表現を捉え、読み味わう。また、作品を通し豊かな表現を学び、最終的には生徒同士で作品の相互評価を行う。また、文学史に関する知識の向上と、その覚え方も学ぶ。	12
7	「漢詩」 文章を書き発信する	漢文特有の表現方法を学習し、そこから、当時の人々の生活や物の考え方を理解する。 題材をまとめて書き、他者に発表する。	12	1	復習及び発展内容 「宇宙人の先生がいらいらっしゃられる？」 地元の魅力や課題を発信	文章の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容を理解し、必要な情報を集め、要約する。 地元の魅力や課題を文章にまとめ、地元へ発信する。	12
8	復習及び発展内容		4	2	古文の復習・基本 「おくのほそ道」 「論語」	作品を通し、用言・助動詞を学習する。 優れた表現や文体の特徴に注意して作品を読み味わい、現代にも通じる古人の考え方を捉える。	16
9	「『正しい』言葉は信じられるか」 「話し合いで問題を検討しよう」 地元の魅力や課題発見	言語によって表現された事象について、様々な捉え方や表現の可能性を考え、表現の幅を広げる。また、様々な情報の読み方を考え、多様な考え方を身に付ける。 地元の魅力や課題を発見し、まとめる。	16	3	「タウン誌の記事を推敲しよう」 「話し合いで問題を検討しよう」 復習及び発展内容	表現力、伝える力を養う。最終的には、ディベート等を通して、実践する。	12

備考 ・適宜、作文・小論文指導を行う。 ・適宜、書写の授業を行う。

教科名	社会	科目名	歴史	単位数	4
対象	中学2年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色をふまえて理解する。 ② 文献史料や資料を活用して多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養う。 ③ 多民族の文化、生活などに関心をもち、国際協調の精神を養う。 ④ 自分の住んでいる地域、道具や生活など身近な対象への歴史に関心をもち、文化や地域を愛する心を培う。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査・配信したワークシートなどで評価。 ② 思考・判断・表現…授業内での発言、定期考査、配信したワークシートなどで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業内での発言、定期考査、ワークシート、課題提出物などで評価。				
学習方法	① 教科書記載事項を重視し、熟読をする。 ② 授業で解説や補足説明を受け、ワークシートにまとめる。 ③ ワーク等で復習することにより、知識の定着を図る。 ④ 史料・資料を読んだり、グラフなどを解読したりすることを通して、歴史的事象の因果関係をまとめる。				
教科書・教材等	新しい社会 歴史（東京書籍） ワーク歴史Ⅰ（エデュケーションネットワーク） ワーク歴史Ⅱ（エデュケーションネットワーク）				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 歴史へのとびら 第2章 古代までの日本 1 世界の古代文明と宗教のおこり	時代区分、歴史の流れのとらえ方、絵画や史料の読み取りを通し、時代の特色を把握する。 人類の誕生から古代文明の発展までの出来事について、地図資料などを活用しながら理解する。	12	10	第5章 開国と近代日本の歩み 2 欧米の進出と日本の開国 3 明治維新	欧米のアジア進出による江戸幕府の対外政策の転換や、開国による国内の影響について理解する。 明治新政府による各種改革の特徴や、議会政治創始への過程、条約改正交渉について理解する。	16
5	第2章 古代までの日本 2 日本列島の誕生と大陸との交流 3 古代国家の歩みと東アジア世界	大陸の文物や制度を日本が積極的に取り入れながら、天皇中心の政治が整えられたことを理解する。 天皇中心から摂関政治までに至った政治的経緯や、中国文化の受容から国風化へと変化していった過程を理解する。	16	11	第5章 開国と近代日本の歩み 4 日清・日露戦争と近代産業 まとめの活動 第6章 二度の世界大戦と日本 1 第一次世界大戦と日本	日清・日露戦争を通し、日本の国際的地位向上と、近代産業の発展、文化の形成と特徴を理解する。 第一次世界大戦前後の国際情勢及び日本の動き、戦後の国際平和・国際協調体制の特徴を理解する。	16
6	3 古代国家の歩みと東アジア世界 まとめの活動 第3章 中世の日本 1 武士の政権の成立 2 ユーラシアの動きと武士の政治の展開	古代文明の特徴、日本の古代社会の変化、律令国家の成立とその変化を把握し、理解を深める。 武士の台頭や、院政、武家政権に至る過程を理解する。 武家政権の成立と東アジア諸国の関与、それらを背景とした文化の特徴を理解する。	16	12	第6章 二度の世界大戦と日本 2 大正デモクラシーの時代 3 世界恐慌と日本の中国侵略	識字率向上や護憲運動による国民の政治的自覚の高まりと、職種が増えたことによってもたらされた文化の大衆化について理解する。 世界的な経済の混乱と国内における社会問題の発生について理解する。	12
7	まとめの活動 第4章 近世の日本 1 ヨーロッパ人の出会いと天下統一	摂関政治と武家政権、鎌倉文化と室町文化の特徴と相違について理解を深める。 中世から近世にかけてのヨーロッパ世界の拡大と、アジアとの交易の様子を理解する。 織豊政権による統一事業や生活文化の展開の過程を理解する。	12	1	第6章 二度の世界大戦と日本 4 第二次世界大戦と日本 まとめの活動 第7章 現代の日本と私たち 1 戦後日本の出発 2 冷戦と日本の発展	軍部の台頭から太平洋戦争に至る経緯と、第二次世界大戦が世界全体に与えた惨禍について理解する。 戦争が世界と日本に与えた影響を説明し、理解を深める。 新しい戦後日本の建設が進められ、日本が発展していく過程を理解する。	12
8	第4章 近世の日本 2 江戸幕府の成立と対外政策	江戸幕府の支配の確立への過程と、初期の対外政策について理解する。	4	2	第7章 現代の日本と私たち 3 新たな時代の日本と世界 まとめの活動	冷戦構造の中で日本が発展できた理由や、国際社会における日本の役割について理解する。 戦後の諸改革が日本に与えた影響や、石油危機が日本に与えた影響を説明し、理解を深める。	16
9	第4章 近世の日本 3 産業の発達と幕府政治の動き・まとめの活動 第5章 開国と近代日本の歩み 1 欧米における近代化の進展	江戸時代に発展した産業・文化・交通の特徴を理解する。 江戸幕府が改革に迫られた経緯、ヨーロッパ社会が日本に与えた影響について理解を深める。 欧米諸国による近代社会の形成と市民革命のかかわりを理解する。	16	3	●歴史の復習・論述	既習範囲を整理把握し、理解を深めるとともに、歴史総合の基礎となる短文論述の活動を通し、歴史的出来事の因果関係を理解する。	12

備考

教科名	数学	科目名	代数	単位数	4
対象	中学2年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 日常の事象(や社会の現象)を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を育てる。 ② 数学の事象から(見通しをもって)問題を見だし解決したり、解決の過程や結果を振り返って統合的、発展的に考察する力を育てる。 ③ 数学的な表現を用いて筋道を立てて(論理的に)説明し伝え合う力をつける。				
評価の観点 評価方法	① 「知識・技能」定期テストによる評価 ② 「思考・判断・表現」小テストや定期テストによる評価 ③ 「主体的に学習に取り組む態度」提出物や授業中の取り組みによる評価 ①②が7割程度、③が3割程度、10段階評価				
学習方法	① 教室での授業を基本とし、必ず予習をする。授業の進度はやや速く、演習と復習に時間をかけ既習範囲の定着を図る。 ② 放課後に演習問題、質問などに応じる。習熟が不十分の場合は放課後補習をする。個別の添削を行う。 ③ 宿題プリントはその日のうちに、丸付け、間違いのやり直しをして、提出日を守って提出する。				
教科書・教材等	体系数学2 代数編(数研出版)、体系問題集 数学2 代数編 標準(数研出版) 未来へひろがる 数学3(啓林館)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 式の計算 1. 多項式の計算	単項式と多項式の乗法・除法の計算ができる。 1次式どうしの乗法の計算、及び公式を用いた式の展開ができるようになる。	12	10	2. 2次方程式の利用	2次方程式を用いて実際の問題を解決したり、具体的な場面で活用することができる。	16
	2. 因数分解 3. 式の計算の利用	因数分解の意味を理解して複雑な因数分解までできるようになる。 式の展開や因数分解を利用して、数量の関係や図形の性質をとらえ、説明することができる。	16	11	第4章 関数 $y=ax^2$ 1. 関数 $y=ax^2$ 2. 関数 $y=ax^2$ のグラフ 3. 関数 $y=ax^2$ の値の変化	事象の中には関数 $y=ax^2$ としてとらえられるものがあることを知り、表、式、グラフを相互に関連付けて理解する。	
6	第2章 平方根 1. 平方根 2. 根号を含む式の計算	平方根という新しい数の存在を知り、その必要性和意味を理解する。 根号を含む式の計算や変形ができるようになる。	16	12	4. 関数 $y=ax^2$ の利用	グラフが階段状になる関数などについて値の変化を調べたりする。	12
	3. 有理数と無理数 4. 近似値と有効数字	有理数と無理数について理解する。 近似値と誤差、有効数字について理解する。	12	1	5. いろいろな関数		
8	問題演習		4	2	第6章 確率と標本調査 4. 標本調査	一部の資料をもとに全体を推定する標本調査に関心をもち、その意味や方法を考えることができるようにする。身近な題材について考察し、標本調査について理解を深める。	16
9	第3章 2次方程式 1. 2次方程式の解き方	2次方程式の必要性和意味、及びその解の意味を理解する。 いろいろな方法で2次方程式を解くことができる。	16	3	まとめ	一年間のまとめとして演習を行い、基礎・基本の定着、応用問題を理解する。	12

備考

教科名	数学	分野名	幾何	単位数	3
対象	中学2年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習目標	① 数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解する。 ② 数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高める。 ③ 数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活動する態度を育てる。				
評価の観点 評価方法	① 「知識・技能」定期テストによる評価 ② 「思考・判断・表現」小テストや定期テストによる評価 ③ 「主体的に学習に取り組む態度」提出物や授業中の取り組みによる評価 ①②が7割程度、③が3割程度、10段階評価				
学習方法	① 教室での授業を基本とし、必ず予習をする。授業の進度はやや速く、演習と復習に時間をかけ既習範囲の定着を図る。 ② 放課後に演習問題、質問などに応じる。習熟が不十分の場合は放課後補習をする。個別の添削を行う。 ③ 宿題プリントはその日のうちに、丸付け、間違いのやり直しをして、提出日を守って提出する。				
教科書・教材等	体系数学2 幾何編（数研出版）、体系問題集数学2 幾何編 標準（数研出版） 未来へひろがる数学2、3（啓林館）				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 図形と相似 1. 相似な図形 2. 三角形の相似条件	相似な図形についての性質が理解できるようにする。 三角形の相似条件に関心を持ち、三角形が相似になることをいろいろな問題で考えることができるようにする。	9	10	第3章 円 1. 外心と垂心 2. 円周角 3. 円に内接する四角形 4. 円の接線 5. 接線と弦のつくる角 6. 方べきの定理 7. 2つの円	円と弦、三角形と外接円の関係を理解し、基本的な定理を使いこなせるようにする。 円周角の定義をきちんと覚え、円周角と中心角についての問題で練習し、円周角の定理を理解し使えるようにする。	12
	3. 平行線と線分の比 4. 中点連結定理	相似な図形の性質を使って、対応する辺の長さや角の大きさを求めることができるようにする。三角形の中点連結定理を、図形の論証に生かすことができるようにする。				円に内接する多角形の定義を正確に理解したうえで、頻繁に用いられる四角形について考える。 円と接線についての性質を利用して様々な問題を解くことができるようにする。	
	5	5. 相似な図形の面積比、体積比 6. 相似の利用	相似な図形の面積比と体積比を理解していろいろな問題を解くことができるようにする。相似な図形の性質を具体的な場面で利用することができる。	12		11	方べきの定理を理解して、辺の長さを求めたり、図形の性質を証明できるようにする。2つの円のいろいろな位置関係を理解して、いろいろな問題を解けるようにする。
6	5. 相似な図形の面積比、体積比 6. 相似の利用	相似な図形の面積比と体積比を理解していろいろな問題を解くことができるようにする。相似な図形の性質を具体的な場面で利用することができる。	12	12	6. 方べきの定理 7. 2つの円	方べきの定理を理解して、辺の長さを求めたり、図形の性質を証明できるようにする。2つの円のいろいろな位置関係を理解して、いろいろな問題を解けるようにする。	9
7	第2章 線分の比と計量 1. 三角形の重心 2. 線分の比と面積比	重心について理解し、証明が出来るようにする。また、その証明した事柄を利用して問題を解くことができるようにする。 平行線と線分の比についての性質を平行線の性質や三角形の相似条件を用いて考察し、証明ができるようにする。	9	1	第4章 三平方の定理 1. 三平方の定理 2. 三平方の定理と平面図形	三平方の定理を理解し、直角三角形の辺の長さを求めたり、特別な直角三角形の性質を利用した問題演習をする。三平方の定理を図形に利用できないか、ここまでで習ったことと三平方の定理を結び付けて解くことができないかを考えて、使えるようにする。	9
	問題演習				3	2	
8	問題演習		3	2	問題演習	空間図形についての確認を行い、それを三平方の定理とどう結び付けられるのかを考えて問題を解けるようにする。	12
9	3. チェバの定理 4. メネラウスの定理	三角形の面積と線分の比の関係を利用して定理の証明を考えて理解できるようにする。またこれらの定理を利用して問題を解けるようにする。	12	3	数学A 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。集合と要素、集合の表し方、部分集合、共通部分と和集合、補集合など用語と記号の意味を理解し活用できるようにする。	9

教科名	理科	科目名	中学理科	単位数	4
対象	中学2年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するための技能を身に付ける。 ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③ 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	未来へひろがるサイエンス2（啓林館）・未来へひろがるサイエンス3（啓林館） 中学の理科-物理・化学-（教育開発出版）・中学の理科-生物・地学-（教育開発出版）				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	エネルギー編② ・電流の性質 ・電流の正体 ・電流と磁界	<ul style="list-style-type: none"> 回路を作って電流の流れ方について学ぶ。 電流と電圧との関係について学ぶ。 電流による発熱量について学ぶ。 静電気による力について学ぶ。 電気の性質について学ぶ。 電流がつくる磁界について学ぶ。 電流が磁界から受ける力について学ぶ。 コイルと磁石で電流を発生させ発電機のしくみを学ぶ。 	12	10	地球編② ・地球を取り巻く大気の様子 ・大気中の水の変化 ・天気の変化と大気の動き ・大気の動きと日本の四季	<ul style="list-style-type: none"> 面に加わる圧力を学ぶ。 気象観測の方法を学ぶ。 雲のつき方を学ぶ。 天気図の読み取り方を学ぶ。 前線の移動と天気の変化のようすを学ぶ。 日本の四季の特徴を学ぶ。 	16
5			16	11	生命編③ ・生物のふえ方と成長 ・遺伝の規則性と遺伝子	<ul style="list-style-type: none"> 無性生殖と有性生殖について学ぶ。 生物の成長と細胞分裂を関連付けて学ぶ。 遺伝子によって形質が親から子へ伝わることを学ぶ。 進化について学ぶ。 	16
6			16	12			12
7	物質編② ・物質の成り立ち ・物質の表し方 ・さまざまな化学変化 ・化学変化と物質の質量	<ul style="list-style-type: none"> 炭酸水素ナトリウムとそれを加熱してできた物質が何かを確かめる法を学ぶ。 水に電気を通して発生した気体などが何かを確かめる方法を学ぶ。 物質を構成している原子、分子などについて学ぶ。 化学反応式の作り方を学ぶ。 鉄と硫黄の混合物を加熱し別の物質ができることを学ぶ。 酸化・還元について学ぶ。 化学変化の熱の出入りを学ぶ。 化学変化の前後で物質全体の質量はどうなるかを学ぶ。 	12	1	地球編③ ・地球から宇宙へ ・太陽と恒星の動き ・月と金星の動きと見え方	<ul style="list-style-type: none"> 太陽の特徴を学ぶ。 太陽系と太陽系外の宇宙について学ぶ。 太陽の1日の動きについて学ぶ。 太陽の1年の動きについて学ぶ。 星の1日の動きについて学ぶ。 星の1年の動きについて学ぶ。 月の満ち欠けについて学ぶ。 金星の動きを学ぶ。 	12
8			4	2			16
9			16	3			12

備考

教科名	音楽	科目名	音楽	単位数	1
対象	中学2年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 ② 楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める。 ③ 音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。				
評価の観点 評価方法	① 自己のイメージをもち、感性を働かし、創造的で個性豊かに技能を身に付けている。 ② 音楽文化に対する総合的な理解を深め、そのよさや美しさを個性豊かに味わう。 ③ 音楽文化を愛好・尊重し、個性豊かに意欲的・主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わう。				
学習方法	① 腹式呼吸による豊かで自然な発声を身につける。 ② ギターの基本演奏を学ぶ。 ③ 楽典の基礎を学び、視唱(奏)力を付ける。 ④ 作品の時代背景、曲のスタイル、他の芸術とのかかわりを理解し、芸術全体のなかの音楽について学ぶ。				
教科書 教材等	中学生の音楽2・3上(教育芸術社)、中学生の器楽(教育芸術社)ほか				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	「浜辺の歌」 「荒城の月」 「サンタ ルチア」	<ul style="list-style-type: none"> 腹式呼吸を基本とした豊かな発声を身に付ける。 基本的な発声に加え、混声合唱としての響きの美しさを聴き合い、のびのびと楽しく表現出来るようになる。 	3	10	「アニーローリー」 「威風堂々」 * 9月の内容の継続	<ul style="list-style-type: none"> サミングを覚え、無理なく美しい高音域をだせるようにする。 	4
5	「エーデルワイス」 「さくら さくら」 「メヌエット」 Am, E 7, C, G 7 コード	<ul style="list-style-type: none"> ギターによる独奏・合奏を行う。 1年次に身に付けた技術を伸張する。また、コードによる伴奏を加え、合奏する。 	4	11	オペラ ポピュラー音楽 文楽 歌舞伎 世界の諸民族の音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞を行う。 西洋音楽に偏ることなく、幅広い音楽観を身に付ける。 	4
6			4	12			3
7			3	1	和楽器の種類と歴史を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 和楽器による演奏を行う。 わが国の伝統的な音楽文化の良さに気づき、尊重する心を育てる。 	3
8	「アニーローリー」 「威風堂々」	<ul style="list-style-type: none"> Aリコーダーによる独奏・合奏を行う。 サミングを覚え、無理なく美しい高音域をだせるようにする。 	1	2	「夢の世界を」 「夏の日の贈り物」 「翼をください」 「卒業式関連唱歌」	<ul style="list-style-type: none"> 混声合唱の調和を目指す2～3部合唱を行う。 	4
9			4	3			3

備考: 曲目は変更される場合があります

教科名	美術	科目名	美術	単位数	1		
対象	中学2年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てる。 ② 感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。						
評価の観点 評価方法	① 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。(美術への関心・意欲・態度) ② 感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。(発想や構想の能力) ③ 感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。(創造的な技能)						
学習方法	個人制作と、一斉授業。						
教科書・教材等	美術2・3(上)(日文)、美術資料(秀学社) 水彩用具、スケッチブック、美術資料など						
年 間 授 業 計 画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	観察し、スケッチする。	見方を変えて、見慣れた風景の思いがけないよさや美しさを発見し、表現する。	3	10	木工芸の作品を制作する。 *9月の内容の継続	手作りの良さを生かして、生活に潤いや彩りを与えるものをつくる。	4
5			4	11	ふるさとの良さをポスターに表現する。	伝えたいことや訴えたいことを工夫しながら表現する。	4
6	モダンテクニックを用いて表現する。	材料の特性を生かし、表し方を工夫して、独自の世界を創造する。	4	12			3
7			3	1	鑑賞する。	日本の浮世絵とヨーロッパ美術を鑑賞することで、それぞれの影響や独自性を理解する。	3
8			1	2			4
9	木工芸の作品を制作する。	手作りの良さを生かして、生活に潤いや彩りを与えるものをつくる。	4	3			3

備考

教科名	保健体育	分野名	保健体育	単位数	3
対象	中学2年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。				
評価の観点 評価方法	① 忘れ物や提出物などを含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ② 各競技の技能を実技テストによって総合的に評価する。 ③ 各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。				
学習方法	① 集団行動 ② 基礎的・合理的な運動の実践 ③ 教科書・資料を用いた学習				
教科書・教材等	必要に応じて視聴覚教材 中学校保健体育（大修館書店）				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	体づくり運動 ※体育理論 運動やスポーツの学び方	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、目的に適した運動を身につけ、組み合わせることができる。 運動やスポーツの意義や効果などについて理解できるようにする。	9	10	武道（剣道）	技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。 相手の動きに応じた基本動作から基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開する。	12
5	陸上競技	記録の向上や競技の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率の良い動きを身につける。 積極的に取り組むと共に、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、健康・安全に気を配ることが出来る。 特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、取り組み方を工夫できる。	12	11	器械運動（マット/跳び箱）	技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。 マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技で、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと。	12
6			12	12	※傷害の防止	傷害の防止について理解を深めることができる。	9
7	ソフトボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できる。 ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開する。	9	1	バレーボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できる。 ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。	9
8	※健康と環境	健康と環境について理解できる。	3	2	卓球 ダンス（約4時間）	感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流ができる。	12
9	水泳（約2時間）	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、泳法を身につけることができるようにする。	12	3			9

備考

教科名	技術・家庭	分野名	技術分野	単位数	1
対象	中学2年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 生活と技術についての基礎的に理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身に付けるようにする。 ② 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。 ③ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。				
評価の観点 評価方法	① 関心・意欲・態度・・・授業態度、作品提出物などで評価 ② 知識・理解・・・ノート、発表、レポート ③ 表現・思考・判断・・・授業への取り組み、発表、作品、提出物で判断				
学習方法	① 作品の製作・完成を通して学ぶ方針で、実習や作業を中心とする。また、教科書だけではなくICT機器などを利用して知識と技術を習得する。				
教科書・教材等	技術・家庭 技術分野 (教育図書株式会社)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	<情報> 情報とわたしたちの生活 1. コンピュータのしくみと基本操作	情報の検索など、パソコンを活用し、情報収集能力をつける。	3	10	<電気> 制作・発表 ラジオ制作 発電のしくみ 電気部品について	電気について興味・関心を持つ。 計画を立て、実際に制作できるようにする。	4
5	2. コンピュータの利用 3. 情報通信ネットワークの利用 4. マルチメディアの活用	電気について興味・関心を持つ。 計画を立て、実際に制作できるようにする。	4	11	<電気> 制作・発表 ラジオ制作 発電のしくみ 電気部品について	電気について興味・関心を持つ。 計画を立て、実際に制作できるようにする。	4
6	5. プログラミングと計測制御 6. 情報社会と自己責任		4	12	<電気> 制作・発表 ラジオ制作 発電のしくみ 電気部品について	電気について興味・関心を持つ。 計画を立て、実際に制作できるようにする。	3
7	<電気> 電気と私たちの生活 1. 電気のしくみを調べよう 2. 電気製品の仕組みを知ろう	電気について興味・関心を持つ。 計画を立て、実際に制作できるようにする。	3	1	<情報> パワーポイントでスライド作成をする 表計算のシートを作成する	上手くパソコンを利用する。 パワーポイントを利用する。 インターネットを利用する。 エクセルを利用する。 情報について興味・関心を持つ。	3
8	3. 電気を使った製品を制作	電気について興味・関心を持つ。 計画を立て、実際に制作できるようにする。	1	2	プログラミングについて 1. BASICの命令 2. 計算プログラム 3. グラフィック機能	プログラミング言語 BASICにふれプログラミングができるようにする。	4
9	<電気> 制作・発表 ラジオ制作 発電のしくみ 電気部品について	電気について興味・関心を持つ。 計画を立て、実際に制作できるようにする。	4	3	4. 絵を描くプログラム 5. ゲームを作ってみよう	BASIC以外のプログラミング言語にふれるようにする。 scratchによるプログラミングにふれプログラムの仕組みを理解する	3

備考

教科名	技術・家庭	分野名	家庭分野	単位数	1
対象	中学2年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ② 家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をより良くしようとする能力と態度を身につける。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…実習への取り組み、実技試験やワークシートなどをもとに評価する。 ② 思考力・判断力・表現力…ワークシートなどをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…実習への取り組み、作品制作過程シートなどをもとに評価する。				
学習方法	① 教室での一斉授業や、実験を通して内容を理解する。 ② 被服実習などの実習により、体験の中で実践的な態度を身につけていく。				
教科書・教材等	『技術・家庭 家庭分野』（教育図書） キャンバストートバッグ（クロッサム）				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	A 衣食住の生活 <1章> 家族・家庭や地域との かわり	・家族・家庭の基本的な働きを理解する。 ・自分にできる家庭の仕事を見つけ、実践することができる。	3	10			4
5		・家族には、それぞれの立場や役割があることを理解する。 ・家族関係をよりよくするための方法を考えることができる。 ・家庭生活は地域とのかかわりで成り立っていることを理解する。 ・地域の人と協働する必要があることを理解する。	4	11			4
6		・高齢者の一般的な身体の特徴を理解する。 ・地域の人とかわりするときのマナーや注意点を理解する。	4	12			3
	A 衣食住の生活 <5章> 生活を豊かにする製作	・製作に必要な材料や道具を安全で効果的に使うことができる。 (手縫い、ミシン縫いの基本練習をする。)			*B衣食住の生活 <調理と食文化>	調理実習：チヂミ	
7		・生活を豊かにするものを考え、製作の計画を立てることができる。 ・目的に合った手さげかばんを作ることができる。 被服実習： キャンバストートバッグ (11月に作品展出品)	3	1	<4章> 私たちの衣生活	・衣服の基本的な働きを理解する。 ・TPOを踏まえた自分らしい服装を考えることができる。 ・日本の伝統的な衣服である和服について理解する。	3
8		以下同様	1	2		・衣服の計画的な活用について考えることができる。 ・衣服を適切に選択するためのポイントを理解する。 ・衣服の表示から情報を読み取り、活用することができる。	4
9			4	3		・衣服の材料や状態に合わせた手入れの方法を理解する。 ・衣服の材料や状態に応じた選択や補修などができる。	3

教科名	外国語	科目名	英語	単位数	7
対象	中学2年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 英語を聞くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。 ② 英語を話すことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを表現することができるようにする。 ③ 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解することができるようにする。 ④ 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを文章にすることができるようにする。				
評価の観点 評価方法	① 4技能（読む・書く・聞く・話す）のための知識と技能を身につけているかという観点で、定期考査、実力テスト、小テストなどによる評価を行う。（知識・技能） ② 学習した知識や技能を活用できているかという観点で、定期考査、実力テスト、授業時における英語活動などによる評価を行う。（思考・判断・表現） ③ 異文化理解や英語を用いてのコミュニケーションへの主体的な取り組みという観点で、授業や課題への取り組み、提出物などによる評価を行う。（主体的に取り組む態度）				
学習方法	① 予習で新出単語の意味を確認し、本文の概要を理解する。 ② 教科書の本文の内容を理解する上で必要な文法事項、語法を学習する。 ③ 本文の内容を理解した上で、一斉音読やペアリーディング等を繰り返し行う。 ④ 演習を通して、学習事項の定着を図る。				
教科書・教材等	教科書 NEW TREASURE STAGE2(Z会) 副教材 NEW TREASURE STAGE2 文法問題集(Z会)、NEW CROWN 2(三省堂)、速読英単語 入門編(Z会)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	Lesson 1 ・接続詞を使った文で物事を説明する ・感嘆文で驚きを伝える	・接続詞 and, but, or, when ・感嘆文	21	10	Lesson 7 過去にしたことや過去の状態を、現在と結び付けて表現する	現在完了 ・完了・結果を表す現在完了 ・経験を表す現在完了 ・継続を表す現在完了	28
	Lesson 2 ・条件や理由を添えて説明する ・勧誘したり申し出をしたりする	・接続詞 if, because, though, that ・Shall I~? Will you ~? have to ~			Lesson 8 さまざまな名詞を用いる	名詞/不定代名詞/再帰代名詞 ・名詞の種類 ・不定代名詞 ・再帰代名詞	
5	Lesson 3 英文を構成する4つの要素を正しく組み合わせる	・SV ・SVC ・SVO ・SV00 ・SVOC	28	11	Lesson 9 名詞をよりくわしく説明する	後置修飾/分詞による修飾 ・前置修飾と後置修飾 ・分詞の形容詞的用法	21
	Lesson 4 ・自分がやりたいことや好きなことを伝える ・動作の目的を伝える	・名詞用法の不定詞 ・副詞用法の不定詞 ・形容詞用法の不定詞			Lesson 10 ものや人の特徴や様子を説明して名詞を限定する	関係代名詞 ・主格の関係代名詞 ・目的格の関係代名詞 ・thatが好まれる場合/否定疑問	
6	Lesson 5 自分の趣味や興味のあることを伝える	動名詞 ・主語・補語になる動名詞 ・目的語になる動名詞 ・不定詞と動名詞/慣用表現	21	1	Lesson 11 不定詞を用いたさまざまな表現を使う	不定詞の発展的用法 ・It~(for-) to... ・SV0+to... ・疑問詞+to... ・too~ to.../~enough to...	28
	Lesson 6 誰かにされたことを表現する	受動態 ・受動態の文 ・受動態の疑問文 ・by以外の前置詞 ・SV00/SVOCの受動態			Lesson 12 相手に確認したり、驚きを伝えたりする	比較/間接疑問/付加疑問/感嘆文 ・比較の文の書きかえ/倍数表現 ・間接疑問 ・付加疑問 ・感嘆文	
7			28	2			21
8			7	3			21